

環境負荷低減の「みえるらべる」の取得手続きが楽になります！ (2026年6月)

- 農林水産省の「環境負荷低減の見える化システム」が、AGBIOTECH (株)の「バイオアプリ」(BioApp)と連携。
- バイオアプリで、従来よりも簡単に「みえるらべる」の取得が可能。

このたび、農林水産省は、農業データ連携基盤(WAGRI)のAPIとして提供している「環境負荷低減の見える化システム」4件目の接続先として、AGBIOTECH株式会社が提供する「バイオアプリ」(BioApp)と連携し、令和8年7月1日(水曜日)から「みえるらべる取得機能」を提供いたします。

農林水産省では、今後とも営農管理アプリ等との連携拡大を図り、生産者の「みえるらべる」取得の利便性向上を目指してまいります。ぜひ「見える化」の取組をご検討ください。



見つけて！

農産物の環境負荷低減の
「見える化」

～温室効果ガス削減への貢献と生物多様性保全への配慮～



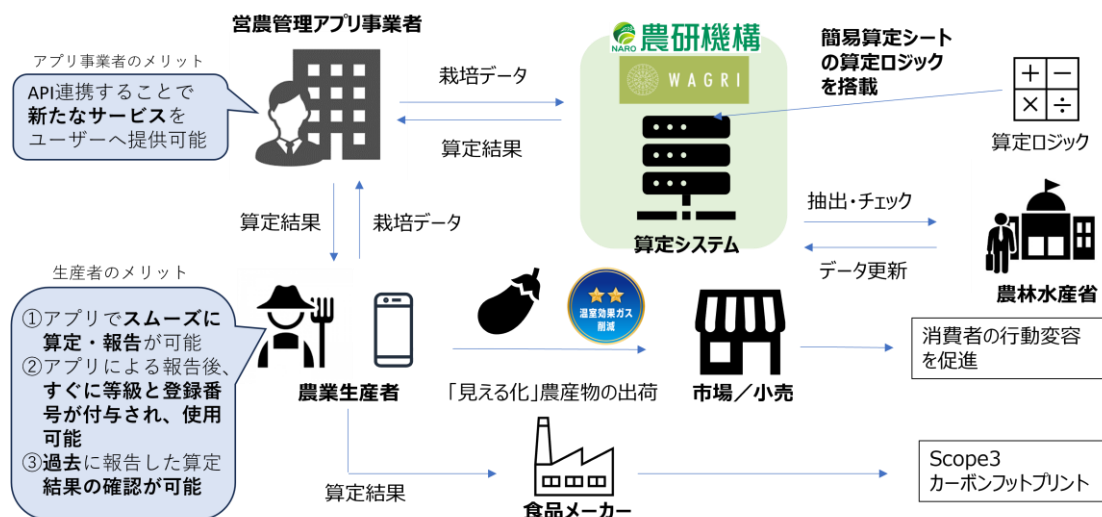
1. 概要

農林水産省では、生産者が行う「温室効果ガス削減への貢献」や「生物多様性の保全」といった環境負荷低減の取組が消費者に伝わるよう、「見える化」(ラベル愛称：みえるらべる)を推進しています。

「環境負荷低減の見える化システム」(以下、「見える化システム」という。)は、農産物の生産段階における温室効果ガスの排出量と吸収量を算定し、「みえるらべる」の等級と登録番号を自動で付与するものです。農林水産省が令和7年3月に開発し、同年6月から農業データ連携基盤(WAGRI)のAPIとして提供しています。

営農管理アプリ等が見える化システムとAPI連携することで、生産者が自らの栽培情報を用いて、営農管理アプリ等を通じて、温室効果ガスの排出・吸収量と、地域の慣行栽培と比較した削減貢献率を算定することが可能です。さらに、

「みえるらべる」を表示するために必要な農林水産省への算定結果の報告も、同様に行うことができます。これにより、従来の簡易算定シート（Excel）の記入及び農林水産省への提出が不要となり^{注1}、「みえるらべる」の使用に必要な登録番号の取得等の手続に要する時間の短縮や、算定シートを記入する負担の軽減など、利便性の向上が期待されます^{注2}。



2. ビオアプリとの連携

ビオアプリ（BioApp）は、AGBIOTECH 株式会社が提供する、契約農家による地球環境への貢献の可視化を目的としたアプリです。

このたび、ビオアプリが見える化システムと API 連携し、米や野菜等 23 品目を対象とした「みえるらべる取得機能」が構築されました。

また、見える化システムから取得した GHG 排出量の算定結果（地域の慣行栽培と比較した削減貢献量）を用いて、栽培された米や野菜が出荷された量に応じて削減貢献量が随時加算され、アプリ内に表示されます。これにより、農産物の生産・流通・消費を通じた環境負荷低減への貢献が「見える化」されます。

注1 見える化システムを通じて登録番号を取得した後に、農林水産省から事実確認や再算定のご連絡を行う場合があります。

注2 見える化システムと連携した営農管理アプリ等を使用せず、従来の簡易算定シート（Excel）により報告することも、引き続き可能です。

3. 連携中の営農管理アプリ等

現在見える化システムと連携中の営農管理アプリ等は次のとおりです。これらをご利用の方で環境負荷低減の「見える化」にご関心のある方は、ぜひお試しください。

○株式会社クボタ 「KSAS」(クボタスマートアグリシステム)

提供時期：令和7年7月30日から

対象品目：米(温室効果ガス削減貢献のみ)

○アグリノート株式会社 「アグリノート」

提供時期：令和7年9月30日から

対象品目：米(温室効果ガス削減貢献のみ)、茶

○JA 全農 「担い手営農サポートシステム」(NE サポシステム)

提供時期：令和7年10月27日から

対象品目：米や野菜等23品目(現在の「見える化」対象24品目のうちピーマンを除く23品目)

○AGBIOTECH 株式会社 「バイオアプリ」(BioApp)

提供時期：令和8年7月1日から

対象品目：米や野菜等23品目(現在の「見える化」対象24品目のうちピーマンを除く23品目)

4. 営農管理アプリ等事業者の皆様へ

農林水産省では、今後とも見える化システムとのAPI連携を希望する営農管理アプリ等事業者をお待ちしております。営農管理アプリ等を見える化システムと連携することで、営農管理アプリ側で独自に算定ロジックを構築・搭載することなく、温室効果ガスの排出・吸収量と、地域の慣行栽培と比較した削減貢献率を算定するサービスの提供が可能です。

< 参考 >

○環境負荷低減の見える化システム（農林水産省 HP）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/mierukasystem.html

○農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」（農林水産省 HP）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/mieruka.html



大臣官房みどりの食料システム戦略グループ

担当者：地球環境対策室 地球温暖化対策調整・推進班

代表：03-3502-8111（内線 3289）

ダイヤルイン：03-6744-2473